みだれかご (3)

石神井　加藤正世

朝霧

此の頃は毎朝深い霧が立ちこめて，森や林の綠色が灰色の薄絹に包まれてしまふ。細かい霧の粒の流れを縫つて庭先に出て見ると，至る處の樹の繁みや枝の間に張り渡された，クサグモの棚網やヤマシロオニグモの丸網が，或は絹の風呂敷を擴げたやうに，或は眞珠の首飾りをつなぎ合せたやうに，美しく飾られて居る。とりわけ丸網に露の玉を宿した姿は又となく美しいものである。

やがて霧がうすらいで太陽が射し初めると，七彩の光を輝かせ乍ら間もなく消えて行く。

大掃除

大掃除オホヒメグモに暴風雨(あらし)かな

上向きに止まるヤマシロオニグモ

裏の生垣に小さなヤマシロオニグモが網を張つて居る。見ると普通とは反對に頭を上にして居るのである。「逆かに止る」と云へるだらうか。

カマキリとオホヒメグモ

去年の秋の事である。一匹のカマキリが燈火を慕つて入つて來た。うるさいと思ひ乍らもほつて置いた處，翌朝部屋の隅にあるオホヒメグモの網に掛つてこと切れて居た。

流石獰猛なカマキリも蜘蛛網に自由を奪はれたら三文の價値もない。あのか弱いオホヒメグモがカマキリにかぶりついて居る姿は人間が鯨に噛りついて居る様なものだ。

硯の水を吸ふオホヒメグモ

机の上で墨を摺つて居ると，天井から硯を目がけて一匹のオホヒメグモが絲

を引いて下つて來た。そして墨水に口を當てゝ吸つて居るのである。ルーペで覗いて見るとさもうまさうに吸つて居るのである。蜘蛛でも水を飲むことがあると見える。用が濟んだらさつさと元へ戻つて行つた。

新築家屋と蜘蛛

家蠅とオホヒメグモは人間の居る處どこまでもつき纒ふうるさい動物である三年前寓居を新築した處，本尊が引越して來る前既に占領して居たが，今度標本館を新築したのでどんな蜘蛛がやつて來るかと監視して居ると，屋內に小形のハヘトリグモ（ネコハヘトリ？）が二匹活動して居る。未だオホヒメグモは引越して來ないが，玄関にはヤミイロカニグモが電燈附近に餌食を漁り，屋根の處にはオニグモのらしい網が張られて居る。

且て述べた家の中の蜘蛛の內，イヘユウレイグモは是迄見當らなかつたが今年になつて始めて發見した。

液漬標本の新方法

管壜に投り込む蜘蛛の標本は，肢を縮めて見る影もなくなつてしまふので，公衆に見せる標本としては面白くない。それで色々研究した結果次の方法で整肢した標本が出來る。

1. 管壜，丁度その中に收まる硝子板（不要の乾板を切つて用ひるのが最良）

2. 20％フオルマリン液，その三分の一の酢酸。

3. 透明セルロイドの溶液。これは酢酸アミールでセルロイドをドロドロに溶解して作る。

方法　硝子板にセルロイド液を塗り（硝子板を一廻りする樣側面も，裏面も塗つて置く。これは液中で離れても蜘蛛だけ落ちない爲である。

セルロイドは速かに乾燥するから，手早く蜘蛛を乘せて，整肢し（液が乾けばその部分に追加する），充分乾燥させる。次に管壜に 2 に示した液を入れる。

硝子板に貼つた蜘蛛は，體上に酒精を滴下して浸透性を附し，然る後にそのまゝ液に漬けるのである。